

圓島、黃龍ノ西南ニアリ、林樹蒼蔚、東ノ方畧有、入口十三步、内廣サ六十步許リ、其形口狹ク内圓ク、恰モ袋ノゴトシ故ニ亦袋ノ畧トモイフ、海ノ深サ十五尋許、此島之近旁ニ嶼苔多シ、東島本島ノ北ノ背ノ東ニアリ、飛岸島同上

以上十島、人居住スベシ、又本島ノ少シ西南島西俱ニ高山アリ、又本島ノ西二十五里ニ釜島トイフアリ、形ニ因テ名付、此外八十餘ノ嶼苔アリ、岩石岫峨トシテ居住スベカラズ、只産物アルノミ、八丈ヨリ小笠原島ニ渡ル洋中ニ五嶼アリ、皆純石ノ一大山ニシテ、産物ナシ、唯舟行ノ標準トスベシ、

〔日本地誌提要^{十六}附、小笠原島、

小笠原群島、伊豆八丈島ノ南少東壹百八拾里ニアリ、北緯貳拾六度三拾分ヨリ、貳拾七度壹拾貳分ニ至リ、東經貳度貳拾分ヨリ、三拾三分ノ間ニ散布ス、大小八拾九島、最大ナル者ヲ父母二

島トナス、兄弟姉妹諸島之ヲ環リ、小嶼其間ニ點綴ス、全島山谷深阻、地質礫确ニシテ、平曠ニ乏シ、然下モ氣候恒燠、能茂木衆草ヲ育ス、瀕海亦巉巖、礁斥相連リ、風濤險惡、碇泊ニ便ナラズ、文祿

中、小笠原貞頼航海シテ始テ之ヲ檢出ス、故ニ小笠原島ト稱ス、後開拓ヲ計ル者アリ、終ニ果サズ、文久元年、徳川氏巡視使ヲ派シテ各島ヲ測定シ、士民ヲ移居セシメ、墾闢ヲ議ス、會内地多故、

事終ニ中止ス、

父島 一名北島、又本島ト云、周回凡壹拾五里、東西壹里、南北貳里、^{○中}

母島 一名南島、父島之南少南拾壹里餘ニ在リ、周回九里、東西貳拾七町、南北四里、

〔南方海島志〕小笠原島

赤水云、文祿年間、信州深志ノ營、小笠原民部少輔定頼者闢之、故ニ總名ヲ小笠原島トイフ、^{○中}延